

### 3 月期海安協議事録

#### 1. 冒頭挨拶（安東総括）

大統領選挙では、第2回討論会会場付近で爆竹か爆弾か分からないような爆発事件があったが、比較的平穏に進んでいる。これから投票日に向けて、熱を帯びていくと思われるため、情勢については注意が必要である。

#### 2. 最近の政治・治安情勢（竹田書記官）

大統領選が近づいているが、警察の取締りも厳しいためか、大きな事件や事故は発生していない。テロなどの動きは抑えられていると評価。しかしながら、大統領選に向けて、過激派による不穏な動きも見られており、今後も十分に注意するようお願いしたい。

#### 3. 邦人に関わる最近の事件・事故報告（佐藤書記官）

(1) 2月1日に邦人が被害に遭う置引きが発生。場所はセントラルモール内のスタバ。被害者は、スマホの操作に気をとられていたところ、犯人に足元のカバンを窃取。犯人は3人組で、1人はスマホで話しているふりをして足でカバンをかきだし、そのかきだしたカバンをもう1人が窃取。もう1人は店員に気がつかれないよう店員の目を引いていた。この事件はグループでの犯行のため注意が必要。犯人はまだ捕まっていない。犯人はビジネスマンを装ってスーツを着るなど巧妙になっていることに加え、3、4月は各社とも異動の時期なので注意喚起をお願いしたい。

(2) 3月末の MRT 開通について、大使館にも安全かどうかなどの問合せが多いが、実際に動き始めないと分からない。MRT は日本の技術による公共交通機関のため、走行などの安全性は高いと思うが、車内の安全性については現時点では分からない。

大使館としては、トランスジャカルタのバス内でのスリなどの被害が多かったため、公共交通機関は利用を控えるように依頼していた。

現時点では、安全が担保出来る自家用車での移動を推奨したい。

選挙に伴うデモや集会は発生していないが、金曜日の礼拝後は、集会在散見される。選挙が近づくにつれ、集会などが多くなることが予想されるため注意が必要。

#### （領事部からの補足）

(1) 本事件は、邦人同士で向き合って交渉していた最中に発生した。自分の視野に入らない場所にカバンを置いてしまったため、死角になったことが原因で、窃取に気がつかなかった。基本的にカバンなどは目に付く場所に置く、足で挟むなど対策が必要である。

(2) 第25回参議院議員通常選挙が今年の夏に行われる予定。大使館・総領事館で投票

するためには在外選挙人名簿への登録が必要。申請は同居家族の代理申請も可能。2018年6月1日から、海外赴任にあたり市区町村から国外への転出届を出す際に、当該市区町村の窓口でも「出国時申請」ができるようになった。当地到着後、大使館に在留届をオンラインまたは紙媒体で提出することで、3ヶ月の居住要件が無くなり所要期間の短縮になる。

(3) 今期通常国会が1月28日から始まっており、6月26日が会期末になる予定だが、会期延長が無ければ、日本では7月4日公示、7月21日に投開票が行われることが有力視されている。その場合、大使館での投票期間は公示翌日の7月5日(金)から7月15日(月)までの予定。「在外選挙人証」取得については概ね2か月から3か月要するので早めの申請をお願いしたい。

(4) 「在外選挙人証」を持つと、在外公館であれば、居住国に加え、出張や旅行先などの在外公館でも投票できる。一時帰国の際の投票、期間前投票、不在者投票も行える。詳細は大使館のホームページにおける領事の在外選挙のページで確認してほしい。大使館では、本件は、松永書記官が担当する。

(5) 4月に補欠選挙があるが、対象は沖縄県と大阪府。4月10日に在外公館投票を行う予定。詳細は追ってメールで送付予定。

#### 4. 最近の医療情報（堀田在広州総医務官（応援出張中））

(1) 3月6日付領事メールでポリオの発生状況ならびに追加の予防接種を案内したが、実は、WHOが緊急事態宣言を出した背景は、WHOの思惑もある。それは、WHOが決めたポリオ根絶に向けたロードマップに間に合わないため、WHOは焦って緊急事態宣言を出した。WHOは緊急事態宣言を出すものの、WHOは各国に対してアドバイザーであり強制力があるわけではない。

(2) 実際に、インドネシアでもパプア州でポリオは発生している。ポリオは小児麻痺という疾患で5歳以下に罹患し、麻痺が残ることがある。成人でも罹患することもあり、稀に亡くなる方もいるが、実際には90%以上が不顕性感染（感染するが発症しない）病気。

(3) 日本人は、2012年以前は経口生ポリオワクチンの2回投与によりポリオ抗体の免疫獲得をしていた。2012年からは注射型の不活化ワクチンになり、4回接種となった。しかし、海外と比較すると、海外は3～4回の予防接種が基本だが、以前日本人は2回のみ経口型ポリオのだったため罹患する可能性がある。そのため、外務省からも追加予防接種の勧告を出している。

(4) インドネシアでもパプア州で生ワクチン由来のポリオが発症している。パプワ州でも生ワクチンを子供に与えたことによってポリオが発生したという見解。

(5) WHO が注意喚起すると日本政府としても対応せざるを得ない。接種しなければいけないということではなく、予防接種を検討して欲しいというメッセージ。パプア州などに行く方は、注意が必要なため、必要に応じて予防接種すべきである。ポリオの予防接種は、追加接種すればするほど免疫力は上がる。

(6) 1点懸念があり、国によってはインドネシアから入国しようとした場合、ポリオを予防接種したか否かで、入国を制限される可能性がある。入国制限は国の保健省の対応によって異なるため、注意が必要。インドネシア国内に蔓延までいたっていない。

(安東総括) 感染はどのような経路か？

(堀田医務官) 主な感染経路は、糞便中のウイルスが口の中に入ることによる感染で、汚物を処理した手からの経口感染が中心だが、飛まつ感染もある。

不顕性感染は、罹るけれども症状が出ないこと。パプアの場合は、90%以上症状が出ないが、1年以上は腹部内で増殖するため注意が必要。症状に出るのは5%程度。幼い子に症状が出やすい。

(日系企業からの質問) 日本人の予防は分かったが、インドネシア人も同様に幼少期に予防接種しているという解釈でよいか。スタッフは既に免疫が出来ているか。

(堀田医務官) インドネシア政府と WHO が共同して国内を回っている。インドネシア人でも一般的に3回程度の予防接種をしている。しかし、今回のパプアで発生しているポリオは形が違う。

(日系企業からの質問) 2012年以前は経口型生ワクチンが中心で、それ以降は注射型の不活化ワクチンになったとのことだが、駐在員の年代は経口生ポリオワクチンをされていると解釈してよいか。

(堀田医務官) 注射型の不活化ワクチンは、経口生ポリオワクチンより安全性はある。しかし、予防接種なので副作用はあることも注意。リスクとポリオ抗体の免疫獲得によるが、現在流行している地域へ渡航するなど必要とされる方は、もし可能であれば追加接種されることが望ましい。インドネシア国内医療機関で注射型の不活化ワクチンの予防接種は可

能である。

（日系企業からの質問）本社にはどのように相談すべきか。基本的には予防接種は打った方が良いのか。

（堀田医務官）予防接種は罹患するものの安全性はある。しかし、予防接種なので副作用はあることも注意。もし接種できるのであれば打った方が望ましい。何度打っても問題のないワクチンである。インドネシア国内にも注射ワクチンがある。

## 5. 質疑応答、各社（団体）からの報告等

（報告）

（1）最近、デング熱が流行しているという話をよく耳にするが、わが社駐在員が「チクングニア熱」という病気にかかった。日本に一時帰国中に発症した為、隔離病棟に入院中。デング熱同様に、蚊が媒体する病気で高熱、全身のだるさがある。

（2）今後、大統領選挙キャンペーンが激しくなる時期に当たり、危機管理上、様々な事態を想定して備える必要があると考えている。一つのベンチマークとして、5年前の大統領選挙時の状況を踏まえて、どのように対応するのが良いのか、過去の事例から学べるものがあれば教えてもらいたい。

（堀田医務官）

チクングニア熱には治療方法が無いため、対処療法として点滴などで対応する。バンドンではデング熱に関して報告をよく耳にするので、注意が必要。

（領事部からの補足）

領事メールにて注意喚起を行っている。これから盛り上がる時期になるため、報道などに注意してもらいたい。

（報告）

5年前の大統領選挙では、土日はスディルマン通りや広場にバスが大挙して来ていた。午前中からバスが押し寄せ、前にも後ろにも進めない状況があった。非常に混雑した。

（報告）

工業団地周辺の企業では、防災対策について準備している企業が増えている。本協議会での情報発信の効果が出ているのでは無いか。防災対策は、各企業で特色がある。連絡経路や連絡網も構築している。

(領事部からの報告)

(1) 大使館の駐車を工事しており、帰りの際には少し時間を要する可能性が有るため  
ご容赦願いたい。

(2) 次回海安協は、4月9日(火)に開催予定。